



【Mother to Mother PJ】 ケニア現地レポート

2015年11月16日～22日

ケニア視察の概要

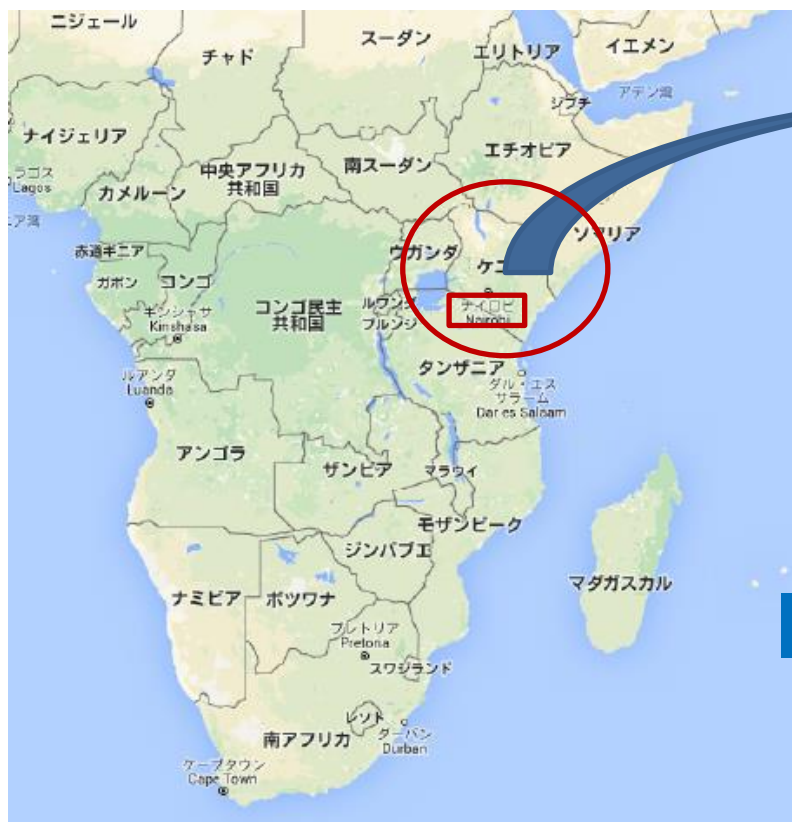


日にち	場所	訪問先
11/16, 11/17	日本からケニア	関空～ドバイ (11h) トランジット (5h) ドバイ～ナイロビ (5h) 車でナロクへ (3h)
11/18 (水)	ナロク県	<ul style="list-style-type: none">➤ ワールド・ビジョン ケニア/イララマタクADP*事務所➤ Elangata Enterit Dispensary (診療所)➤ Elangata Enterit 小学校➤ Mobile clinic (巡回診療)➤ マサイ族の実際の集落と住居
11/19 (木)	ナロク県	➤ Community Health Partners運営のHealth Center
	ナイロビ	➤ ナロク県政府ナイロビオフィス
11/20 (金)	ナイロビ	<ul style="list-style-type: none">➤ ケニア保健衛生省➤ 在ケニア日本大使館➤ ワールド・ビジョン ケニア事務所
11/21	ケニア出国	—

ケニアについて



- 首都ナイロビ、人口4,435万人、国土の大半が1100~1800m
- 主要産業は農業（総輸出の65%）：紅茶、花卉（切り花）



今回の支援地付近

車で、ナイロビからナロクまで約3時間、
ナロクから支援地までも未舗装道を約3時間



ナイロビからナロク県に向かう途中の
広大な風景

ケニアを南北に走る大地溝帯
(上)、ドライバーさんから説明を
受ける竹安本部長と土田氏



- ケニアでは1974年設立
- 56のADP*（地域開発プログラム）を実施中
- ケニア全土で1,057人のスタッフ
- チャイルド・スポンサーシップの対象として登録されている子ども：
154,142人
- 今回のシオノギの支援地イララマタクは、
56ADPの中でも最も過酷な環境
 - 無線機付きランドクルーザー
で道なき道を進む



ナロク県のホテルから支援地への途中。エルニーニョの影響で例年の雨季より雨量が多く、道が濁流で寸断されていた



- スタッフ8名
 - このうち1名がMother to Mother担当
- イララマタク地域出身者が半数以上
 - 地域に貢献したいという強い想い
- 2016年1月からイララマタクADPマネージャーに就任するShinina Shaniはかつてワールド・ビジョンの支援を受けていた
 - ワールド・ビジョンによる地域開発の恩恵を自ら実感してきた



真ん中がShinina氏



12月11日のプレスセミナーで演者となるDr. Chula（ナロク県サブカウンティ保健省）と議論中の竹安本部長、土田氏とWVJ谷村氏



Elangata Enterit Dispensary (支援地域の診療所)



- 1985年にキリスト教宣教団体により建設。約15,000人をカバー
 - 現在は公的な保健施設
- Mother to Mother PJではこの診療所（レベル2）のすぐ隣に、より規模の大きいHealth Center（レベル3）を建設予定
 - ケニアの医療施設はレベル1~6まであり、数字が大きいほど規模が大きい。

- この地域の医療環境向上にシオノギは貢献する



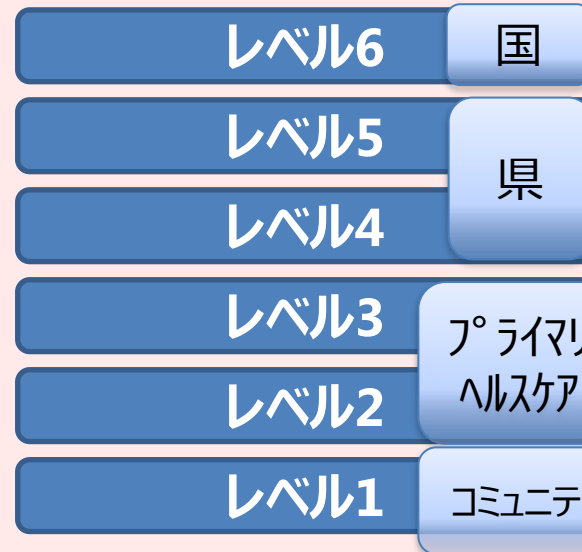
診療所の周りは大自然が広がっており、集落を見つけるのは難しい。非常に遠方から、患者さんは診療所まで来ないといけないことが写真からわかる。



診療所前に集まり
ポスターを持つマサイの女性陣と土田氏

ケニア政府（47の県から成る）

公的医療機関



4以上が病院あつかい

産科機能などを有する

簡素な医療機関

シオノギはこのレベルの医療の質向上に取り組む

地域医療ボランティアがつなぐ

地域住民

地域医療ボランティアについて



- ケニアではCommunity Health Volunteer (CHV) と呼ぶ
- 1人が20~25家庭を担当し、地域医療のカギとなる
- 最低でも月に一度の訪問、保健衛生の知識普及、患者の保健施設への照会、巡回診療の運営などを担当
- 無給のため離脱が多く、教育・定着によるレベル確保が課題



最近導入された救急車（この簡素な車内で妊婦健診が行われていた）とこの地域のCHV（右）



Elangata Enterit 小学校への訪問



- 小学校は1~8年まで457人が在籍
- ワールド・ビジョンの教育支援によって、ナロク県で1位の成績の学校にまで成長
- 遠く危険な通学路を避けるために女子寮も併設



女子生徒、男子生徒による歓迎の歌と踊り。彼女らの歌詞中に「シオノギ」と歌っている箇所があった。歓迎されているとともに、現地のシオノギに対する想いを感じ、責任の重さを実感した。



Mobile clinic（巡回診療）の見学



- 5歳未満児が対象
- はしか等の各種予防接種のほか、ビタミンA投与、身体測定、母子健康手帳配布などを行う
 - この母子健康手帳は日本のものを手本にして、JICAの支援で作成された



屋外でのワクチン接種と
それを待つ人びと



マサイ族の実際の集落と住居の見学



● Naboru Loibormangi (40歳代) の家庭訪問

- 彼女はElangata Enterit地域中心部779人のリーダー
- また、診療所、小学校運営委員会メンバーでもある
- 地域の女性グループのリーダーも兼務しており、女性の地位向上にも取り組んでいる（マサイは極度の男尊女卑社会のため）



マサイの住居を見学する
竹安本部長（左）と
集落の子ども



集落の子どもたち



本PJ支援で建てるものと同規模のHealth Center訪問

- キリスト教宣教団体が運営母体
- ナロク県や他県で12のHealth Centerを運営しており、ここが全体の本部にあたる
 - ケニア政府、アメリカ政府、EU、ワールド・ビジョンなどからも支援



Health Center母屋と所長John O. Sankok氏に
Mother to Mother PJの説明をする土田氏



本PJ支援で建てるものと同規模のHealth Center訪問

- 外来診療室、母子保健室、一般病棟、産科棟、検査室、薬局、薬品庫、資材倉庫など多岐にわたる建物から成る
 - シオノギ支援地では、ここと同規模のHealth Centerが完成する予定



薬品庫で薬剤師から説明を受ける竹安本部長と土田氏（左）
分娩室で助産師（所長の奥様）から説明を受ける竹安本部長

● ナロク県知事Hon. Samuel Kuntai Tunai氏との面談

- ナロク県での厳しい母子保健状況に対するシオノギからの支援に対して、賛同と謝意が示された
- 地方分権が進んでおり、保健政策に関してもこの知事に権限が委譲されている



ポスターをもつナロク県知事と竹安本部長、土田氏とナロク県保健省Hon. Ezekiel Rono氏（左）
面談後に個別に知事と議論する竹安本部長と土田氏

- 保健衛生省Community Health Service Unitトップ
Dr. Salim Ali Hussein氏と同Unitのofficer Dr. Samuel N. Njoroge氏との面談
 - Dr. Salimからケニアのcommunity health戦略の説明
 - ケニア全体の母子保健政策とナロク県でのシオノギの支援活動が上手くリンクする事を確認いただいた



Dr. SalimとDr. SamuelにPJの説明をする土田氏
と竹安本部長



ポスターを持つDr. Salimと
ワールド・ビジョン Janet氏

在ケニア日本大使館表敬訪問

- 特命全権大使 寺田達志氏
- 専門調査員 吉田祐樹氏
- JICAケニア事務所 吉田久美子氏



- 2016年8月開催のアフリカ開発会議（TICAD VI）
 - 初のアフリカ開催（ケニア）の予定で大使館は多忙を極めていた
- ケニア大統領夫人マーガレット氏も母子保健に熱心
 - 愛育病院（東京）視察で感銘を受けられたとのこと
- 天皇誕生日レセプションでの大使によるスピーチに、シオノギの名が入っていた（日本政府のUniversal Health Coverage推進にマッチする具体例として取り上げられていた）

- イラマタク支援地域、ナロク県、ケニア、日本政府というふうに現場から国レベルまでの母子保健政策の実情を把握できた
- 日本政府のUniversal Health Coverageの動き、2016年8月ケニア開催のアフリカ開発会議（TICAD）など、本PJとマッチする潮流があることが判明
- 現地視察、在ケニア日本大使館やケニア保健省、関係諸機関への訪問など、全てのコーディネートをワールド・ビジョンに担って頂いた。調整力、機動力が優れた組織といえる
- ケニアは日本に対してかなり好意的（ODAの歴史）
 - 「Japan is our mother.」、というコメントを多くの方々から聞いた
- 現地の子どもたちのキラキラした笑顔が印象的だった

日本からアフリカへ、ママがつなげる元気のバトン

Mother to Mother

SHIONOGI Project



日本のママ

ポボンSシリーズ
売上からの寄付



シオノギの製品で
日本の母を元気にしながら、
ケニアの母も健康にする!



ケニアのママ

妊産婦・新生児・乳幼児の
健康をサポート